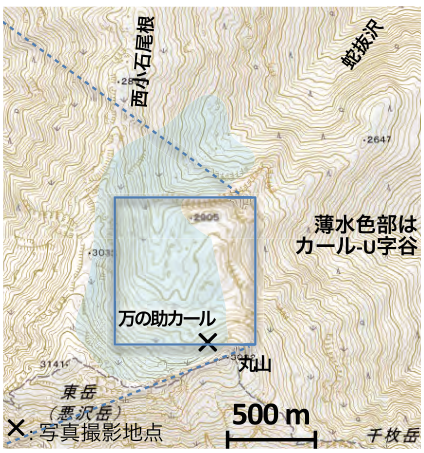
SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

C041
悪沢岳北側斜面の万の助カールと蛇抜沢上流部のU字谷(静岡県GEO DATA(27)特集3：地学散歩(106))

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡県地学会 公開日: 2023-11-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 狩野, 謙一 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/0002000135

C041　悪沢岳北側斜面の万の助カールと蛇抜沢上流部のＵ字谷



国土地理院　地理院地図（電子国土Web）

南アルプスの山岳地形は，多雨を反映した降水による浸食で形成されたＶ字谷と，活発な斜面崩壊が組み合わされて形成されている．しかしながら，標高 3000 m 前後の主稜線周辺には最終氷期（その最終寒冷期はおよそ２万年前）に形成された氷河・周氷河地形がわずかではあるが残存している．そのうち，南部の荒川三山と赤石岳周辺では，日本最南端の氷河地形とされるカール（圏谷）地形を見ることができる．主稜線から分岐した悪沢岳から丸山を結ぶ稜線の標高 3100 m 付近を頂部とする北向き斜面を削り込んだ万の助カールは，その中でも最大規模で東西幅約 1 km のお椀の底状の地形を作っている．それより下部は緩やかで幅広いＵ字谷に漸移し，標高 1650 m 前後でＶ字谷に移行して，蛇抜沢として大井川西俣に流下している．カールの頂部からＶ字谷に移行する間の水平距離は約 1800 m である．カール底にある長さ数 10 m，高さ数 m の細長く緩やかな盛り上がりは，氷河が消滅していく周氷河環境下での凍結融解作用によって，砂礫が移動・集積して形成された岩石氷河である．荒川三山の南向き斜面にも，内部に岩石氷河を伴うより小規模なカールが３つ認められるが，その下部にはＵ字谷は残存していない．（狩野謙一）